

経営 サプリメント

テーマ

AIによる創業支援

～デジタル時代の新たな起業支援のかたち～

AIは創業支援を効率化し、
地方の課題解決にも役立つ可能性を持っています。
今後の起業の形を変える AI活用について紹介します。



秋田県よろず支援拠点
ジェネラリストコーディネーター

渡邊 光彦
Watanabe Mitsuhiko

【主な経歴】
秋田県能代市出身/秋田市在住。
秋田銀行、秋田市役所、秋田県信用保証協会の勤務を経て
令和7年4月より秋田県よろず支援拠点コーディネーター
として勤務。

【お問い合わせ】
秋田県よろず支援拠点 TEL .018-860-5605

01 はじめに

デジタル変革が加速する現代において、人工知能（AI）技術は創業支援の分野でも革新的な変化をもたらしています。秋田県をはじめとする地方都市においても、AIを活用した創業支援により、これまでにない効率性と可能性を秘めたスタートアップエコシステムが形成されつつあります。

02 AIが変える創業支援の現場

1. ビジネスプラン策定の効率化

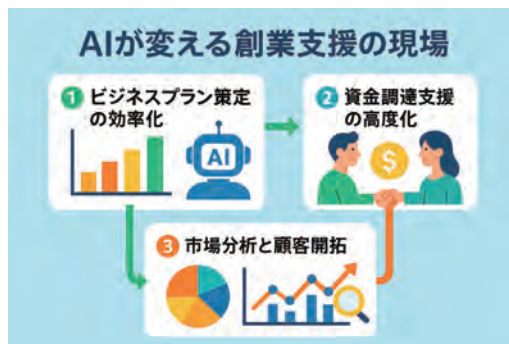
従来、創業者が事業計画書を作成するには、市場調査から財務計画まで膨大な時間と専門知識が必要でした。AIを活用することで、業界データの分析、競合調査、市場規模の推計などを短時間で実行できるようになりました。特に、生成AIを活用したビジネスプラン作成支援ツールは、創業者のアイデアを具体的な事業計画に落とし込む際の強力なパートナーとなっています。

2. 資金調達支援の高度化

補助金申請書や融資申請書の作成においても、AIは強力な支援ツールとなります。過去の成功事例を学習したAIが、説得力のある申請書類の作成をサポートし、創業者の事業内容、成長ステージ、資金需要に基づいて、効果的なピッチ資料の作成までサポートします。これにより、資金調達の成功率向上と期間短縮が実現されています。

3. 市場分析と顧客開拓

AIによる市場分析は、従来の手法では見落としがちな潜在的な市場機会や顧客セグメントを発見します。ソーシャルメディアのデータ分析、消費者行動の予測、競合他社の動向監視など、リアルタイムでの市場情報収集が可能となり、創業初期の重要な戦略決定を支援します。



03 効果的なAI活用のためのプロンプト設計

AIを創業支援に活用する際、最も重要なのは適切なプロンプト（指示文）の設計です。AIは非常に高度な能力を持っていますが、「何を求めているのか」を正確に伝えなければ、期待する結果は得られません。適切なプロンプト設計により、AIからの確で実用的なアドバイスを引き出すことができます。

効果的なAI活用のためのプロンプト設計



役割設定(Role)AIに専門性を与える

AIに期待する専門性や立場を明確に定義します。「あなたは経験豊富なマーケティングコンサルタントです」「金融機関審査担当者の視点で評価してください」など、具体的な役割を与えることで、AIの回答の方向性と専門性が高まります。創業支援においては、財務アドバイザー、事業計画コンサルタント、市場調査の専門家など、場面に応じた役割設定が効果的です。



文脈情報(Context)背景情報の提供

ビジネスの背景、業界特性、現在直面している課題、これまでの経緯など、判断に必要な前提情報を提供します。「秋田県で農産物の6次産業化を目指している」「資金調達の初期段階で、地域金融機関へのアプローチを検討中」といった具体的な状況を伝えることで、AIはより実践的で個別化されたアドバイスを提供できます。文脈が豊富であるほど、回答の精度が向上します。



具体的指示(Instruction)明確なタスク指定

「何をしてほしいか」を曖昧さなく明確に伝えます。「事業計画書の市場分析セクションを作成してください」「競合分析を県内に絞って比較表を作成してください」など、実行してほしいタスクを具体的に指定します。抽象的な質問ではなく、アクションを明確にすることで、AIは実用的な成果物を生成できます。



出力形式(Format)回答形式の指定

期待する回答の形式や構造を指定します。箇条書き、表形式、段落形式、ステップバイステップの説明など、用途に応じた形式を指定することで、そのまま活用できる成果物が得られます。例えば、「5つのポイントを箇条書きで」「比較表形式で3列に整理」といった具体的な指定が有効です。プレゼン資料や報告書への転用を考えた形式指定が実務上重要です。



制約条件(Constraints)ルールの明示

守るべきルールや制限事項を明示します。「800文字以内で」「専門用語を避けて一般の方にもわかりやすく」「ポジティブな側面だけでなくリスクも含めて」など、制約を設けることで、より実用的で目的に合った回答が得られます。特に創業支援では、予算制約、時間的制約、地域特性などの条件を明確にすることが重要です。

これら5つの要素を組み合わせることで、AIは創業者のパートナーとして、質の高い支援を提供できるようになります。プロンプト設計は、AIを単なる情報検索ツールから、実践的なビジネスアドバイザーへと変える鍵となるのです。

04 地方創業への展開可能性

秋田県のような地方都市では、人材不足や情報格差が創業の障壁となることが多くあります。AIによる創業支援は、これらの課題を解決する有効な手段です。オンラインでアクセス可能なAIツールにより、地理的制約を超えて高品質な支援サービスを提供できます。

また、地域特有の課題や資源を活用したビジネスモデルの提案においても、AIの分析能力は大いに役立ちます。農業、観光、伝統工芸など、秋田の地域資源とテクノロジーを融合させた新しいビジネスアイデアの創出支援が期待されています。

05 課題と今後の展望

一方で、AIによる創業支援にはいくつかの課題も存在します。AIの提案は過去のデータに基づくため、完全に新しい市場や革新的なアイデアに対しては限界があります。また、人間の直感や経験に基づく判断の重要性も依然として高く、AIと人間の協働が不可欠です。

今後は、AIの技術進歩に伴い、より精度の高い市場予測や、個別の創業者に最適化されたカスタマイズ支援が実現されるでしょう。また、地域の創業支援機関がAIツールを積極的に導入し、それを使いこなすことにより、支援の質の向上と効率化を図ることが重要です。

06 まとめ

AIによる創業支援は、従来の支援手法を大きく変革し、創業者に対して効率的で効果的なサポートを提供します。特に地方都市においては、人材や情報の制約を補完する重要な役割を果たします。ただし、AIはあくまでもツールであり、最終的な意思決定は人間が行うべきです。AIと人間の知恵を組み合わせることで、より多くの革新的な企業が生まれ、地域経済の活性化につながることを期待されます。

AIによる創業支援についてもっと知りたいという方は、[秋田県よろず支援拠点](#) にぜひご相談ください。お待ちしております。